

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,990	t-CO <sub>2</sub>
（温室①を除外炭素換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO <sub>2</sub>
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	④メタン		t-CO <sub>2</sub>
	⑤一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑨三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		3,990

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度	t-CO <sub>2</sub>	令和 6 年度	t-CO <sub>2</sub>	令和 4 年度	t-CO <sub>2</sub>	令和 5 年度	t-CO <sub>2</sub>	令和 6 年度	t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量	3,748	t-CO <sub>2</sub>	3,635	t-CO <sub>2</sub>	3,784	t-CO <sub>2</sub>	3,841	t-CO <sub>2</sub>	3,990	t-CO <sub>2</sub>
削減率（対基準年度）			3.0	%	▲ 1.0	%	▲ 2.5	%	▲ 6.5	%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
原単位あたりの排出量										
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

夏季の気温上昇や冬季の気温低下による空調の電気使用量の増加により未達。
-------------------------------------

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷暖房温度を順守する。</li> <li>・空調機器更新時は、省エネタイプに切換える。</li> <li>・クールビズ、ウォームビズの運用を促進する。</li> <li>・窓を順次二重窓にする。</li> </ul>	[設定温度] 冷房時：28℃ (+0℃/－1℃) 暖房時：20℃ ±1℃	エアコンの設定可能な限界温度は下記を継続 [冷房時] 設定温度 24℃⇒26℃ [暖房時] 設定温度24℃⇒ 22℃ 基準点温度が目標温度範囲内になるように推進
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更新時は、LEDタイプに変更する。</li> <li>・不要時の消灯を徹底する。</li> </ul>		照明の不要時消灯を継続
省エネルギー・省資源の行動の実践・0A機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネモード設定を徹底する。</li> <li>・待機電力の削減を推進する。</li> </ul>		長期休暇中はコンセントプラグ抜きを推進
省エネルギー・省資源の行動の実践・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便座ヒータを夏期の期間は停止する。</li> <li>・電気式給湯器を夏期の期間は停止する。</li> <li>・恒温槽を長期休暇中は停止する。</li> </ul>	[夏期停止期間] 6月～9月	[夏期停止期間] 5月～10月
自動車利用における取組	業務による移動は公共交通機関を利用する。		社用車による長距離移動の許可制を継続

指針第2号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)
平成14年度	太陽光発電施設	最大出力:100kW、発電量:49,418kWh
平成26年度	太陽光発電施設	最大出力:100kw、年間発電量0kwh (休止中)
平成30年度	太陽光発電施設	最大出力:100kW、発電量:118,114kWh

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO <sub>2</sub>
熱		t-CO <sub>2</sub>

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO <sub>2</sub>
-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出社人数を把握して、1人当たりの水使用量を調査</li> </ul>
---

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「定時の日 (水・金曜日)」 継続</li> <li>・ 「海ごみゼロ活動」 継続</li> </ul>
---